

学生からのメッセージ

テニス部で過ごした
5年間

福岡歯科大学 第5学年
藤岡彩

コロナ禍で中止を余儀なくされていた全日本歯科学学生総合体育大会(デンタル)。今年の夏は3年ぶりに開催されることになりました。

前回大会、私は2年生でした。

先輩方がデンタルに出ることが叶わず引退する年が2年続き、私もその覚悟をしていた時、開催の知らせを聞き喜びました。先輩方のためにも良い結果を報告したいと思いました。

4月に部活が再開しデンタルまで残り3ヶ月、全てが元通りとはいかない限られた時間の中で、部員全員で一生懸命練習し準備してきました。デンタルを経験しているのが2学年のみという不安もありましたが、全員で協力して乗り越えようと話し合いました。しかし7月に入って新型コロナが再び流行し、開会式の10日前にデンタルの中止が決まりました。こんな形で自分たちの引退が決まり残念な気持ちでいっぱいです。

それでも思い返せば楽しかったことばかりです。先輩・後輩・同期との繋がりが、試合で一勝できた時の嬉しさ、辛かった夏の練習などテニス部で過ごした5年間全てが大切な宝物になりました。さらに私はキャプテンを拝命し、責任感や全体を見る力を養いました。この経験を将来に活かしていきたいです。



保護者からのメッセージ

思いやり

福岡歯科大学 学生後援会評議員
松元洋一

私が卒業して、気付くと30年以上経過してしまいました。

3年前から始まったCOVID-19による世界的パンデミックを誰が想像できたでしょうか？

新型コロナの先が見えない中で、学生生活を送っている皆さん、私の学生時代にはリモートの講義という言葉はありませんでした。

コロナ禍での学業は何かと制約があると思いますがその中でも工夫して先に進んでいかないとダメですね。

皆さんが目指す職業は、テレワークでの運営が難しいもので、対面を必要とするこの職業では感染のリスクのことも考えていかなければなりません。今までの普通が普通ではなくなり、新しい普通が定着しつつあるのかもしれない。学業はもちろん大切ですが、人への思いやりをまず大切にしたいと思っています。

この歳になると、人との繋がりはかけがえのないものと感じます。年齢を重ねることで見えてくるものが多々あります。

「情けは人の為ならず」

この言葉には、「巡り巡って我が身に帰る」という下の句があります。本来の意味は、人に親切にすると巡り巡って自分に良い事が帰ってくるという意味があるそうです。

人に対する思いやりを忘れない先生になってください。



New Sophia
コラム

薄

太宰府に赴任したところのある山上憶良が詠んだ「萩の花尾花葛花撫子の花 女郎花また藤袴朝顔の花」という577577のリズムの歌が万葉集に収められている。これが秋の七草の起源。

2番目の尾花が、ススキ(芒、薄、Miscanthus sinensis)として知られる山野でふっつに見られるイネ科ススキ属の多年生草本。花はどこかと思うかもしれないが、ちゃんと秋に咲き、中秋の名月にはお供えに飾られる。

イネ科の植物は風媒という、昆虫などを要しない受粉様式をとる。このため蜜を分泌したり、香りで誘引したりする必要がなく、花びらさえ欠いてしまっている。イネの種子(米)は毎日のように食べているが、花らしい花は見たことがないのも同じである。

意外に思うかもしれないが、ススキもサクラなどと同じように気象庁の植物季節観測の対象となっている。大濠公園の福岡管区気象台にもススキの標準木があり、昨年のススキの開花日は9月19日だった。



(内藤徹)

編集後記

暑さが和らぎ、朝夕は涼くなりました。夏休みが終わり、学園にも活気が戻ってきました。第116号では学園の各種情報とともに、2023年から男女共学化がスタートする福岡医療短期大学の特集記事を掲載しています。お楽しみください。季節の変わり目なので体調を崩されないようお過ごしいただけらと思います。